

□議員名：松尾数則

1 中山間地域づくり指針について

論点	改定された中山間づくり指針の目的並びにその必要性について聞く。
回答	中山間地域は多面的機能によって下流域の市民の財産、豊かな暮らしを守っている。過疎化、高齢化の進行に伴い、後継者問題や地域コミュニティー機能の低下等集落機能の維持管理が難しい地域も存在する。中山間地域対策を進める方向性を示した指針を策定した。

論点	山口県の中山間地域の持つ多面的機能の評価額が1兆1,700億円というような数値も出ているが、山陽小野田市の評価額はいくらか
回答	中山間地域の持っている食料の供給機能、環境の保全機能など、多面的機能の重要性について客観的に評価し、また経済的価値に換算することは困難であるため、試算はしていない。しかし中山間地域は本市に大変重要な役割を担っていると認識はしている。

論点	農林水産業の担い手について聞く。
回答	担い手の確保はどの分野においても非常に重要な課題である。農業では新規就農者及び新規就農者を受け入れる法人に対し、今年度から新規就農者が本市で農業を始める際に必要な機械や施設の導入を補助し、また転入者に家賃の一部補助を行う。

論点	今後、山陽小野田市の公共建築物の新築、増改築に市内産の木材の使用を仕様書定め指導していくことは不可能か。
回答	市内の公共建築物については市内産の木材を使用するように働きかけていきたいと思っている。仕様書の中に地元産のものを使うことができるかどうかということについては、建築住宅課とも協議をしていく必要があるがそれに向けて話を進めたい。

論点	有害鳥獣対策について他市と比較すると、山陽小野田市の助成制度が遅れているとの指摘が多い、現実はどうか。
----	---

回答	有害鳥獣対策は、補助金交付などの事業に変わりはない。ただ、実績額は、本市の2.4倍から7.6倍の森林面積の違いにより、鳥獣の捕獲頭数が本市と比較して、2.1倍から6.8倍となっている。それが他市に比べて実績が少額である理由である。
----	---

論点	鹿の被害も多い、今後の対策について考えを聞く。
回答	防護柵設置の補助金を交付している。鹿用の柵の設置を行う場合にも対応する。鹿は柵の高さが1.8メートル必要で、それに対応できる要綱の見直し等も行っていく。

論点	6次産業について考えを聞く。
回答	本市では第一次産業の担い手の高齢化が進み、農業においては営農法人の設立等個人から集団による営農へと転換が進んでいるが、マンパワーが不足により市においてはそれを支援する体制ができず、現状では6次産業への取り組みは考えていない。

論点	中山間地域の集落を維持するための仕組みづくりについて聞く。
回答	中山間地域の課題を解決する手段として、地域おこし協力隊を活用する。平成31年4月に2名の募集を開始し、9月に1名の応募があった。その後、書類選考、地元面談を経て、令和2年2月に本市初の地域協力隊として委嘱する予定となっている。

論点	地域起こし隊のこれからの活動は。
回答	地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域などに住民票を移動し、生活の拠点を移した者を地域おこし協力隊として委嘱し、一定期間、地域に居住して定住・定着を図る取り組みであり、国の財政上の支援措置も受けられる。

論点	中山間地域の高速通信網について聞く。
回答	中山間地域における高速通信網の必要性は認識している。ただ今の国の支援策も過疎地域が対象であり、本市は該当しない。国に要望をしたい。

論点	小規模化が進み複式学級となった学校の教育問題について聞く。
回答	複式学級の中でリーダーが上手に育ち、それが学習のリーダーを務めれば、教育的効果も高いという思いを持っている。先生方の負担や子供たちに強いる、そのような教育環境を考えると、複式はできるだけ避けたい。

論点	厚狭北部において活躍しているデマンドタクシーを山野井、埴生地区でも運行して欲しい。
回答	埴生地区はいとね号が走っていて、日常生活における移動手段として利用されている。バス路線と競合する形でデマンド型乗り合いタクシー等を導入することは難しい。既存の公共交通機関を上手に御活用して欲しい。

論点	中山間地域の抱えている諸問題は将来の山陽小野田市の市街地の姿でもある。中山間地域が抱えている問題を全力で解決して欲しい。
回答	中山間地域の課題、多岐にわたるということで、それについてしっかり議論を重ねたい。将来的には市全体がそれに近い形になるという危惧もございますので、今しっかりその対応策を目の前のことと、また将来に向かっても考えていく。